

国語

〔一〕 次の文章を読んで、問〔1〕～〔18〕に答えよ。

早朝、目を覚めます。枕もとのスマホを手に取り「Twitterを開く。」^{*1}

夜の間に投稿された誰かのツイートをなんとなく眺める。

また、誰かと誰かが激しい言葉遣いで互いの投稿を攻撃し合っている。

——というようなことを、SNSのアカウントを持つ誰もが経験している2020年代。生活している中で「TwitterやFacebookをはじめとするSNSを見ない日はない、というくらいに」**〔P〕**メディアは私たちの日常生活に浸透している。

〔I〕、SNSの言論空間は、私たちの日常のすべてを覆いつくしていると言えらるのだろうか？ そして、「Twitterトレンドに入っている言葉や出来事は、私たちの社会全体で注目を集め、世論を形成していると言えらるのだろうか？ もしくは、なぜ私たちは毎日のように、オンラインの言論空間で人々が対立したり、炎上したり、攻撃したりされたりする場面を目撃し続けることになっているのか？

いくつもの疑問が浮かんで消えていくなか、ここで考えてみたいことを突き詰めてみるなら、「なぜ私たちは、SNS上で冷静に議論や討論をすることができないのだろうか」という問いに収斂^{しゅうれん}するのかもしれない。

まず、SNSの言論空間が、本当に私たちの社会全体を覆いつくしているのかどうか、という疑問については「否」と回答するべきだろう。否定する理由として、SNSの情報空間が、実は社会全体で共有されているものではないということを知る必要がある。

北村智・佐々木裕一・河合大介が2016年に刊行した『ツイッターの心理学——情報環境と利用者行動』では「高いカスタマイズ可能性」という言葉で、インターネットの情報空間の特性について説明しているので紹介する。

北村らによると、SNSにはアカウントがあり、利用者はそのアカウントを通じて、自分自身が接触^{*2}したい情報の範囲や内容について自分自身の情報空間を「カスタマイズ」できる。その結果、同じプラットフォーム^{*3}のサービスを利用していても、利用者ごとに異なる内容が表示され、異なる情報に接触することになっている。このような異なる内容の表示や情報接触は、情報が「個人化」されている状態であると説明される。「情報の個人化」には「一時的個人化」と「永続的個人化」がある。前者は利用者の入力する内容に応じてセッションごとに提示内容が変化することを示し、後者は利用者が登録した情報やそれまでの利用履歴、もしくはアルゴリズム^{*4}が自動取得していく情報に応じてアカウントごとに表示内容が続いていくという仕組みであると説明されている。

〔II〕、私たちが日々SNSで出会う情報は、アルゴリズムによって自分自身の好みに合うもの

だけに限定されていて、より狭い範囲のものでしかない状態になっているというのである。この「永続的個人化」がなされた情報空間は、「フィルターバブル」という言葉を使って考えてみると、さらに解^aセキ度が上がるかもしれない。

「フィルターバブル」とは、Q がネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々の利用者にとっては望むと望まざるとにかかわらずアルゴリズムの見せたい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔^bりされ、自身の考え方や価値観の「バブル(泡)」の中にコ^c立するという情報環境を指す学術的な言葉である。情報学のR であつたが、最近では新聞などでも使われ、一般にも知られるようになった。

似たような現象を導く概念として「エコーチェンバー」と呼ばれるものがある。こちらは、SNSを利用する際に自分と似た興味関心を持つ利用者ばかりをフォローし続けていくことで、その結果、自分が良いと感じる意見をSNSで発信した時に、自分と似た価値観の意見しか返ってこなくなるという状況を、閉ざされた小さな部屋で音が反^dキヨウするという物理現象になぞらえた言葉である。

つまり、SNSのアカウント越しに接触する情報は、社会全体で共有されているどころか、個別化され、個人化されたものなのである。したがって、私たちがSNSで目にする情報は、個人の感覚からすれば日常的であり、社会のすべてを覆いつくしているかのように感じられるかもしれないが、実際には社会全体で共有などされていないし、社会全体を覆いつくすほどの影響力をもつとは限らない。しかし、SNSと付き合う上でそれ以上に問題なのは、自分専用にかスタマイズされた情報空間が矢継ぎ早に更新されていくという、プラットフォームのもつ吸引力である。例えば、「Twitterの場合、自分自身でフォローしているアカウントのツイートが「タイムライン(TL)」と呼ばれるページに次々と表示されていく。この情報は、スクロールすることに更新されていくため、チカチカと変わりを続けていくTLを眺め続けてしまう、という誘惑を私たちにもたらしている。実際、私自身も、一日の仕事が終わり疲れ切った体を引きずるようにして電車に乗った時などに、つい「Twitterを開き、スクロールしては更新され続けるTLを眺め続けてしまう」という悪癖がある。これは短時間で遊べるスマホゲームに「ハマってしまう」と似たような効果をもっているのかもしれない。

さて。TLを眺め続けてしまう時に、「こんなことをしてる場合じゃない。目も頭も疲れるし、駄目だ、すぐに閉じなきゃ…」と感じることはないだろうか？ 積極的に情報収集をするわけでもなく、知り合いや、直接の知り合いではないけれどもフォローしているちょっとした著名人¹の他愛もない呟^{つぶや}き、推しの日常報告、イベントのお知らせ、社会問題への意見の表明、怒りに満ちた引用ツイート、炎上している案件への介入、もっともらしい正義感の吐^つ口、他人への誹^ひ謗^{ぼう}中傷²の文言…などを、さしたる関心があるわけでもないのに、気づけば30分以上眺めつづけてしまうようなことはないだろうか？

こういう状態に陥ってしまった時に感じるのは、自分自身の意志の弱さである。これはやらなくてはならない仕事や課題があるにもかかわらず、オンラインゲームで時間を費やしてしまったり、Netflix^{*5}でシリーズ物のドラマを見続けてしまったりしたときなどにも抱いてしまう感情に、似たものであるかもしれない。

けれども、「意志が弱い」という言葉を思い浮かべた端から、すぐに「本当にそうなのだろうか？」という疑いも浮かんでくる。だからだとTLを眺め続けてしまうのは（もしくは、だからだとTLに投稿し続けてしまうのは）、本当に個人の意志の問題なのだろうか？ もスクロールしてもTLの内容が更新されないのであれば、おそらく数分たらずで「Twitter」の画面を閉じることができるはずだ。かつて、Web^{*6}1・0時代のホームページはそうだった。自分自身でブックマークしているサイトを巡回し、更新案内が出ているページは時間をかけて読み、更新されていないページは飛ばしていく。さっき見に行ったページを数分後にまた見に行くというようなことをする必要はなく、早くても一日一回、そうでなければ週に一度くらいのペースで覗^{のぞ}きに行けば、欲しい情報はだいたい入手出来ていたというのが、かつてのオンライン空間だった。

だが、いまはどうだろう。フォローしている人が多ければ多いほど、TLでの情報更新は途切れなく続いていく。目まぐるしく移り変わる情報の流れの中に一度浸^ウかってしまうと、どのタイミングでそこから離ればよいか分からなくなる。ここには、個人の意思を超えて私たちの注意を引き付け続けようとする、Web^{*7}2・0の技術と制度設計上の問題が潜んでいる。

同様に、SNSの言論空間で冷静に議論や討論を行うことができない理由として、私たちが他者に不寛容であり、自分とは異なる意見に耳を傾けることができないほど料簡^{りかん}が「S」からだなどの個人の心構えが挙げられることについても、疑いの目を向けてみる事が可能かもしれない。私たちは本当に、自分自身の内なる攻撃性によって、SNSの空間で興奮し、けんか腰で、攻撃的な態度をとってしまうのだろうか？ 本論ではむしろ、そのようにふるまってしまう原因の多くが、SNSを使うために提供されている環境そのものにあるのではないかと疑うことを提案したい。そして、冷静に議論や討論をするために、私たちには何が必要なのかという問いについて考え、よりよい言論空間の生成に向けた提案をしていきたいと考えている。

（田中東子「なぜSNSでは冷静に対話できないのか」『いいね！ボタンを押す前に―ジェンダーから見るネット空間とメディア』なお、出題に際して本文を一部改めてある。）

注

- * 1 「Twitter…ソーシャルメディア・ネットワーキングサービスの一つ（現在のX）。
- * 2 カスタマイズ…好みにあわせて設定を変更すること。
- * 3 プラットフォーム…インターネット上で情報を共有するためのサービスやサイトのこと。
- * 4 アルゴリズム…大量のデータを高速に処理するためにプログラムに組み込んだ一定の計算手順や処理をするシステムのこと。
- * 5 Netflix…ドラマや映画、アニメなどコンテンツを配信するストリーミングサービスの一つ。
- * 6 Web1・0…インターネットができたばかりの時代のWebのこと。情報の流れが一方通行。
- * 7 Web2・0…私たちが現在利用しているインターネットのかたち。情報の流れが双方向。

(10) 本文中の「II」に入るもっとも適切な語を、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。
(解答番号(10))

- ① ところが ② つまり ③ あるいは ④ 反対に ⑤ しながら

(11) 空欄部「Q」に入るもっとも適切な語を、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。
(解答番号(11))

- ① プラットフォーム ② カスタマイズ ③ アルゴリズム ④ SNS
⑤ アカウント

(12) 空欄部「R」に入るもっとも適切な語句を、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。
(解答番号(12))

- ① 経済用語 ② 環境用語 ③ 心理用語 ④ 政治用語 ⑤ 専門用語

(13) 波線部ア「自分専用のカスタマイズされた情報空間」を説明したものとして、もっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号(13))

- ① 同じプラットフォームのサービスを利用して利用者は、誰にも同じ内容が表示される。
② 情報はすべての人に開かれているので、利用者の観点にあわない情報も排除されない。
③ 私たちの出会う情報空間は、アルゴリズムによって限りなく広い範囲のものになっている。
④ 私たちの出会う情報空間は、アルゴリズムによってより狭い範囲のものになっている。
⑤ カスタマイズされた情報空間では自分自身が接触したい範囲の情報しか取得できない。

(14) 波線部イ「プラットフォームの持つ吸引力」とはどのようなことか。次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号(14))

- ① カスタマイズされた情報空間が、技術と制度設計により矢継ぎ早に更新されていき、私たちの注意を引き付け続けようとする力。
② 著名人の呟きや、推しの日常報告など、それらのコンテンツにある魅力。
③ 私たちが世界とつながるために、プラットフォームに吸い寄せられる力。
④ 他にすることもない私たちが楽しんで、TLをだらだらと眺め続けられる力。
⑤ 内なる攻撃性を隠し持っている私たちは、SNSの空間だからこそ、けんか腰で攻撃的な一面を見せることができる力。

〔15〕 波線部ウ「ここ」を指す内容としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔15〕)

- ① フォローしている人が多ければ多いほど、TLでの情報更新がとぎれないこと。
- ② TLをスクロールして内容が更新されないので、Twitterの画面を閉じること。
- ③ 目まぐるしく移り変わる情報の流れの中に一度浸かってしまうと、どのタイミングでそこから離ればよいか分からなくなることに。
- ④ 自分自身でブックマークしているサイトを巡回し、更新案内が出ているページは時間をかけて読み、更新されていないページは飛ばしていくこと。
- ⑤ 意志が弱いので、ただだとTLを眺め続けてしまうこと。

〔16〕 空欄部 S に入る語としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔16〕)

- ① 狭い
- ② 小さい
- ③ 広い
- ④ 浅い
- ⑤ 大きい

〔17〕 SNSの言論空間に関して本文の内容と異なるものを、次の次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔17〕)

- ① Twitterトレンドに入っている言葉や出来事は、私たちの社会全体で注目を集め、世論を形成しているとはではない。
- ② 私たちは内なる攻撃性を秘めているのであり、SNSの空間で興奮し、けんか腰で、攻撃的な態度をとってしまうのは仕方のないことである。
- ③ オンラインゲームで時間を費やしてしまったり、Netflixでシリーズ物のドラマを見続けてしまった時と同じようにTLを眺め続けてしまう時に、「自分自身の意志の弱さ」を感じてしまう。
- ④ アルゴリズムの見せたい情報が優先的に表示され、自身の考え方や価値観の「バブル(泡)の」中に孤立するという情報環境のことを「フィルターバブル」と呼ぶ。
- ⑤ SNSを利用する際に自分と似た興味関心を持つ利用者ばかりをフォローし続けていくことで、自分が良いと感じる意見をSNSで発信した時に、自分と似た価値観の意見しか返ってこなくなるという状況を「エコーチェンバー」という。

〔18〕 二重傍線部A「なぜ私たちは、SNS上で冷静に議論や対話ができないのか」という問いに対する答えとして適切でないものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔18〕)

① SNSで出会う情報は、実はアルゴリズムによって自分の好みだけに限定されているから。

② SNSの言論空間は、私たちの日常のすべてを覆いつくし、Twitterトレンドに入っている言葉や出来事は、私たちの社会全体で注目を集め、世論を形成しているかのように見えてしまうから。

③ 私たちがSNSの情報空間に浸かってしまい、もはや自分とは異なる意見に耳を傾けることができず、他者に不寛容になってしまふのは意志が弱いから。

④ 自分専用のカスタマイズされた情報空間が更新されていくプラットフォームの吸引力は個人の意志を超えて、私たちの注意をひきつけ続けていくから。

⑤ 私たちが興奮し、攻撃的な態度をとってしまうのは、SNSを使うために提供されている環境そのものが私たちを興奮させ、攻撃的な態度をとらせてしまうのかもしれないから。

(二) 次の文章を読んで、問(19)～(36)に答えよ。なお、本文中にある①～④の数字は、形式段落の番号とする。

①¹ 保険制度の財政的問題を解決するために、本当に困っている人には国が救いの手をさしのべ、それ以外の人は民間保険で自らを守ればよいとする見解もある。いまある皆保険制度を全部廃止するのではなく、その基本部分を守り、それを越える医療については患者の自由な判断で医療を受けられるようにする。基本部分を越える部分は、もちろん患者自身が負担することになる。保険医療の部分でできるだけ高いレベルに維持し、それを越える部分についてだけ患者が自分の判断でお金を払うのであれば、それはそれで良いのではないか、合理的でないかと思わせる方法だ。これが混合診療問題であり、これまで何度も繰り返されてきた議論だ。混合診療に対しては、医師の諸団体は従来から強く反対している。一方、経済界は全面的に解禁するべきだと強く主張している。では、混合診療にはどのような問題があるのだろうか。

② 一般の商品を買う場合には、それぞれが自分の財布と相談して、自分のニーズに一番合ったものを選ぶだろう。大部分の医療費は皆保険制度で支払ってもらい、それを越える医療を自由な選択とするのは何か問題があるのだろうか。本来、自由主義経済のもとにある日本では、混合診療を認めた方がより合理的だし、そうでなければ価格を政府が統制する制度となってしまうのではないか。このような意見が聞こえてくる。

③^ウ 一方、「混合診療」を導入するべきではないという意見を、医師の諸団体は主張している。しかし、その説明は必ずしもわかりやすいものではない。二〇一三年七月六日付けの朝日新聞に、フリーライター²の早川幸子が書いた記事「混合診療」にまつわる三つの誤解を解く^アが掲^イげられている。

この記事では、①日本の医療制度は融通がきかず硬直的だ、②自由診療の方がよい治療を受けられる、③「混合診療」を全面解禁した方が国民負担は軽くなる、という三つの誤解^Bに対して答える形式をとりながら、「混合診療」の問題点をわかりやすく解説している。

④ 制度が融通がきかず硬直的だという誤解①に対しては、「保険外併用療養(先進医療)」という制度があることを述べている。がんや難病を患っていて他に治療法のない患者には、健康保険が適用されない治療でも試したいという人はいる。そのような場合、安全性を確認した上で、将来保険診療に組み込むことを前提として、患者の自己負担と健康保険を組み合わせることを認めている。このように、すでに健康保険と自費を混合する診療は部分的に認められているのだが、正しく理解されず、「日本の医療制度は硬直的だ」といった誤解を生んでいる。

⑤ 医療は病気やケガを治すのが目的だが、治療には少なからず身体にダメージを与えることがある。そのため、新しい治療法は厳しいテストを経て、安全性と有効性が確認される。その手順を経て初めて、医療現場で使われるような標準的治療法となる。ところが、「混合診療」を無制限に認めると、^C医学的に根拠のない危険な治療法がⁱ大手を振ってまかり通ることになる。それでは、医療の質と安全性という、最も重要な医療の前提ⁱがないがしろにされることになる。自由診療の方がよい治療が受けられるという期待は誤解であることがわかる。

⑥ 「保険外併用療養費制度」において、保険外の治療法の費用を患者が全額負担するのは、保険承認されるまでの経過的な措置だ。優れた治療法であれば、いずれは、だれもが健康保険の中でその治療を受けられるようにするのが目標だ。ところが、「混合診療」を全面解禁した場合、健康保険で治療を受けられる範囲を広げていくという流れは進まなくなる。

⑦ 必要性が高く、高価でも売れる薬などを開発した場合、企業の中には、保険適用をめざすより、自由に価格を決められる自由診療で売っていくことを選択するものが現れる。当然価格は高めに設定されることになる。そうであっても、患者には医療費のうちどれが保険の範囲で、どれが自由診療の支払いに当たるのかは、とてもわかりにくい。そして、医療費は高騰し、医療の格差が大きく広がっていく。「混合診療」を全面解禁した方が国民負担は軽くなるという期待は、大きな誤解であることがわかる。

⑧ このように問題を含む「混合診療」だが、これを解禁すれば、どのような結果となるかについては、すでにわが国には歯科の分野での経験がある。それは、手痛い歴史のP¹というべきものだ。

⑨ 一九六一年の国民皆保険制度の実現の後、医療は驚異的な進歩を遂げ、医療費も急激に増大してきた。その増大を何とか経済の高度成長が支えてきたものの、永く続くものではない。さらに新しい医療技術の進歩をどのように健康保険制度に組み込んでいくか。診療報酬シユウ制度について最も強い発言力をもっていた日本医師会の基本的姿勢は、医学の進歩によってもたらされた新しい治療法を健康保険の対象とするように強く要求していくことだった。時には、新技術が健康保険の対象となった当初には、患者数も少なく、保険の単価では引き合わないこともあったが、基本は保険収載（保険の対象とする）を目指すことであった。それがかなわない場合には、時期が来れば保険に取り入れることを前提にした「保険外併用療養（先進医療）」を制度として組み入れることとした。これは国の評価により保険収載の候補として、制限付きで認められた一種の「混合診療」だ。

⑩ 一方、歯科においては、診療の中に占める補綴（歯の欠損を義歯やクラウン、ブリッジなどで修復する技術）の割合が大きく、この診療報酬シユウが保険適応となって安く設定されることを恐れたためか、保険収載を拒み、むしろ歯科医師が見積もった総額と保険適応の技術との「差額」を歯科医師が自由に決めて徴収してよいという制度を推進した。歯科の医療は、医科の医療とはQ¹に、保険制度から離れる「脱保険路線」を選択し、「混合診療」をR¹に取り入れる方向に進んでいた。

⑪ この方式は一九六七年当時の厚生省保険局長の通達から始まり、一九七六年の中央社会保険医療協議会（中医協）において、日本歯科医師会のメンバー欠席のもとでその通達が廃止されるまでつづいた。この歯科分野の「脱保険路線」が、歯科の領域に限定されたとはいえ「混合診療の全面的解禁」の一〇年以上にわたる経験であり、それは手痛い教訓となった。

⑫ もし歯科の診療で、比較的安く設定された保険診療と、自由に価格が設定できる自由診療を組み合わせるとなると、どのようなことが起きるのか。

⑬ 医療のことを知らない患者にとっては、自分の歯の治療には何が適切なのかを判断することはできない。したがって、通常は歯科医師が「必要だ」と言う治療法を受け入れるしかない。そこに、歯

(23) 波線部ア「基本部分」とは何の基本部分のことを言っているのか。その内容としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⁽²³⁾)

- ① 保険制度の財政的問題
- ② 国の救いの手
- ③ いまある皆保険制度
- ④ 民間保険
- ⑤ 患者の自由な判断

(24) 二重傍線部A「合理的ではないかと思わせる」の説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⁽²⁴⁾)

- ① 本当に困っている人が医療を受けられなくなると社会の不安が高まるため、皆保険制度には大きな意味があると思わせる。
- ② 保険制度の財政的問題を解決するために、本当に困っている人以外の人は民間の保険で自らを守るようにするという考えは民間の保険会社の利益になって良いのではないかと思わせる。
- ③ できるだけ多くの人に保険医療を適用しつつ、それを越える診療を希望する場合は自己負担となるのなら、誰も損することなく保険制度の財政的問題の解決に有効であると思わせる。
- ④ 患者が自由な判断で医療を受けられるようにすると、高い医療費を払いたい人だけが払う仕組みになるので、民間の保険会社に頼れば良いのではないかと思わせる。
- ⑤ 自分の財布と相談して買いたい物を買うのと同じで、医療も患者の希望によって選べるようにする方が価格を統制できるので良いのではと思わせる。

(25) 波線部イ「このような意見」を主張しているのは主に誰なのか。もっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⁽²⁵⁾)

- ① 本当に困っている人
- ② 医師の諸団体
- ③ 患者
- ④ 経済界
- ⑤ 日本

(26) 波線部ウ「その説明」とあるが「その」の指す内容としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⁽²⁶⁾)

- ① 日本政府
- ② 経済界の主張
- ③ 患者の判断
- ④ 本当に困っている人
- ⑤ 医師の諸団体の主張

(27) 二重傍線部B「三つの誤解」が、**4**段落～**7**段落で説明されている。このうち**6**段落は誤解①、誤解②、誤解③のうち、どの誤解について説明しようとしているか。もっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⁽²⁷⁾)

- ① 「誤解①」
- ② 「誤解②」
- ③ 「誤解③」
- ④ 「誤解①」と「誤解②」
- ⑤ 「誤解①」と「誤解③」

〔28〕 二重傍線部C「医学的に根拠のない危険な治療法が大手を振ってまかり通ることになる」のはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。

(解答番号〔28〕)

① 「混合診療」を無制限に認めると、患者の自己負担で治療を受ける自由診療の場合、治療にかかる金額に歯止めがきかなくなるため、比較的安価な治療法を多くの人が選ぶようになり、結果的に危険な治療法が安いからという理由で広がっていくことになるから。

② 「混合診療」を無制限に認めると、健康保険で治療を受けられる範囲を広げていくという流れは進まなくなるため、医学に関する研究に予算がかけられなくなって危険な治療法がどんどん増えていくことになってしまうから。

③ 「混合診療」を無制限に認めると、病気やケガを治すのが医療の目的であるにもかかわらず、結果的に治療によって少なからず身体にダメージを与えてしまうことになる危険な治療に歯止めがかからなくなってしまうため。

④ 「混合診療」を無制限に認めると、医療現場で使われるような標準的な治療法の価値が下がってしまい、だれもが安心して治療を受けられる健康保険制度の仕組みが混乱してしまうため、危険な治療法であっても仕方なく選ばないといけなくなるから。

⑤ 「混合診療」を無制限に認めると、患者が自分の判断で自由に治療方法を選ぶことができるようになるため、安全性と有効性が十分に確認されない治療法でも患者が希望すればその方法をとることができるようになるから。

〔29〕 傍線部i「ないがしろ」の本文中の意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔29〕)

① あってもないかのように軽んずること。

② 台無しにすること。

③ 骨抜きにすること。

④ 他のものに置き換えてしまうこと。

⑤ 可能性をつぶしてしまうこと。

〔30〕 波線部E「経過的な措置」の指す内容としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔30〕)

① 保険承認されること。

② 保険外の治療法の費用を患者が一時的に全額負担すること。

③ だれもが健康保険の中でその治療を受けられるようにすること。

④ 保険外併用療養費制度のこと。

⑤ 自由診療のこと。

[31] 二重傍線部D「価格は高めに設定される」のはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[31])

① 高価でも売れる薬を開発した場合、医師の中にはそれを独占して販売し、価格を高めに設定してもうけようとするものが現れるのは当然だから。

② 新しい治療法は厳しいテストを経て、安全性と有効性を確かめなければならないため、それにかかる経費によって価格が高くなるのは当然と言えるから。

③ 利益を多く上げることが優先する企業が新しい薬を開発した場合、あえて自由診療で売っていく選択をして新しい薬の価格を高く設定するのは当然と言えるから。

④ 健康保険が適用されない治療でも試したいと思う患者がいるため、自由診療の場合には治療費が全て患者負担となっても高額の医療費を払うのは当然と考えるから。

⑤ 自由主義経済のもとにある日本では、自分のニーズに合う薬を選ぶことになっているから、ニーズの多い薬の値段が高くなるのは当然と言えるから。

[32] 空欄 [P] に入る熟語は他にも本文中で使われている。空欄 [P] に入る熟語としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[32])

- ① 頻発 ② 議論 ③ 主張 ④ 教訓 ⑤ 誤解

[33] 空欄 [Q] と空欄 [R] に入る語の組み合わせとしてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[33])

- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| ① [Q] 可逆的 | [R] 合理的 | ② [Q] 関数的 | [R] 歴史的 |
| ③ [Q] 分離的 | [R] 驚異的 | ④ [Q] 相關的 | [R] 發展的 |
| ⑤ [Q] 対照的 | [R] 全面的 | | |

[34] 波線部オ「その通達」を出した者としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[34])

- ① 中央社会保険医療協議会
② 厚生省保険局長
③ 日本歯科医師会
④ 歯科医師
⑤ メンバー

〔35〕 傍線部ii「不心得者」の本文中の意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔35〕)

- ① 自分のことしか考えていない者
- ② 何も考えていない者
- ③ よこしまな考えをもつ者
- ④ 人に勝つことばかりを考えている者
- ⑤ 人に対する思いやりが無い者

〔36〕 本文の内容としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。

(解答番号〔36〕)

- ① 歯科分野では「混合診療の全面的解禁」が一〇年以上も続いたため、比較的安く設定された保険診療と自由に価格が設定できる自由診療を組み合わせるとして患者にとって非常に合理的な仕組みによって国民負担が軽くなるという効果が見られた。
- ② 医療の分野では国民皆保険制度の実現後、医療技術が驚異的な進歩を遂げた。新しい医療技術が健康保険の対象となった当初には、患者数が少ないこともあって、保険の単価に不釣り合いなほど医療費が高額になることもあった。
- ③ 本当に困っている人には国が救いの手をさしのべるために皆保険制度ができた。これは患者の自由な判断によって医療を受けられるようにするものであり、自分のニーズに一番合った治療法を選べるという点で画期的な方法である。
- ④ 最も強い発言力をもっていた歯科医師会が自由診療に対して従来から強く反対しており、健康保険で治療を受けられる範囲を広げていくことによって先進的で効果の高い治療法を全ての患者が受けられるようになった要因となっている。
- ⑤ 新しい治療法の価格を自由に設定できると、自由に設定できる部分が肥大して健康保険制度の財政的問題が悪化するため、高い治療を受けようとする富裕層だけではなく患者全体に不利益が及ぶ結果となる。